

草加市平和上映会



戦争と平和、時代と人生。
ベトナム戦争従軍取材から
50年

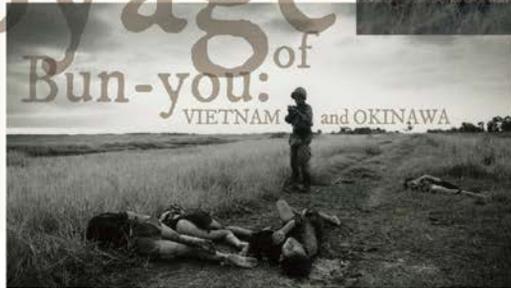


石川文洋を旅する

戦場カメラマンが見たベトナム、アメリカ、そして沖縄——。



a Voyage
of
Bun-you: VIETNAM and OKINAWA



大宮浩一監督作品 『無常素顔』『長嶺ヤス子 裸足のフランコ』
企画・監督:大宮浩一 撮影:山内大空 加藤孝信 編集:遠山慎二
音響デザイン:石垣野 挿入歌:吉岡美佐子『天架ける橋』『天架ける橋II』『家路』
助成:委文化芸術振興費補助金 製作:大宮映像製作所 配給:東風
2014年 | HD | 109分 | ドキュメンタリー

www.tabi-bunyo.com

日時 令和5年7月8日(土) 午前10時~正午

場所 草加市立中央図書館4階 多目的ホール

作品 石川文洋を旅する

言語 日本語

定員 50名(要事前申込)

申込 草加市人権共生課

※入場無料
申込は裏面を
ご参照下さい



石川文洋さんは1938年沖縄に生まれた。世界一周無銭旅行を夢みて日本を脱出。64年から南ベトナム政府軍・米軍に従軍し、戦場カメラマンとしてベトナム戦争を世界に伝えた。そして68年末に帰国してから今日にいたるまで、ふるさと沖縄の姿を記録し続けている。

本作は、75歳になった文洋さんとともにベトナムと沖縄を旅し、その生立ちと青春とを見つめる。切り売りの命がけのネガフィルム、サイゴンの下宿、アオザイを着たスチュワーデスの神秘的な魅力、解放戦線兵士が眠る烈士墓地、幾世代にも及ぶ枯葉剤の影響。そしていまなお沖縄に張り巡らされるフェンス、配備されたばかりのオスプレイ。

沖縄、ベトナム、そして “石川文洋” 青年は、いかにして戦場カメラマン となったのか？



アメリカへの憧れと失望。

従軍取材中、文洋さんはアメリカの市民権を求めて米兵となった沖縄出身の青年と出会う。二人は立場を超えて、本土の人にはわかってもらえない沖縄人の葛藤と切なさを語り合った。文洋さん自身、“侵している側”の米軍に同行しての取材は複雑な感情を伴うものだったと言う。しかし、かつて日本人が撮った沖縄戦の写真は一枚も無く、すべて米軍が記録したものだった。それでも沖縄戦がどうであったかがわかる。だから、ベトナム戦争を取材したネガは個人のものでなく世界の財産なのだ。

文洋さんはいつも穏やかに訥々と話す。

2014年は文洋さんが従軍取材をはじめてから50年の節目の年となる。その軌跡をたどるこの旅は、今という時代を生きる私たちに深く静かな思索へといざなっていく。



観覧を希望される方は、6月23日（金）までに、はがきに住所・氏名・電話番号を記入し、〒340-8550 草加市役所人権共生課「平和上映係」へ。

メールでも応募可。（下記アドレスまたはQRコード参照）

なお、1通のはがき（メール）で2名まで応募可能です。

主催：草加市 平和ネットワーク草加

問い合わせ先：草加市人権共生課

電話：048-922-0825

Email: jinken-kyosei@city.soka.saitama.jp

